

第3回とやま未来創生産学官連携推進会議における主な意見

(平成31年3月15日 開催)

- ・『くすりのシリコンバレーTOYAMA』創造コンソーシアムも「とやまアルミコンソーシアム」も、大学としての役割は大変大きいと考えており、今後とも企業と連携してまいりたい。
- ・今後、両コンソーシアムとの連携を強化することがかなり重要。
- ・承認医薬品ネットワークや周産期新生児学会など産学官連携に向けた取組みが広がっており、これを活用して両コンソーシアムとコラボレーションできると考えている。
- ・新たな法制定や2つのコンソーシアム設立など経済界として大変うれしく思う。
- ・人材育成のための法律ができて、今後は薬剤師をはじめとする県内の育成について何らかのテコ入れや新たな施策が必要なのではないか。
- ・国や県の支援を受けながら創薬を進めていける状況は大変有難いが、5年後に民間がどれだけ投資して取り組んでいけるかが肝心。今から5年後を見据えた準備に取り組んでいくことが必要。
- ・両コンソーシアムは未だかつてない新しい取組みであり、産業界としても期待。
- ・若者へのアプローチと専門教育の観点が優れており、応援してまいりたい。
- ・スピード感を持って進んでいると感じており、こうした動きが他のものづくりに波及することにより、富山のものづくり分野の裾野が広がることを期待する。これと並行してインターンシップの受け皿も広げていくべき。
- ・プロジェクトの推進と人材育成に貢献していきたい。
- ・経済界から富山型の地方創生のモデルとなる取組みが重要であることから多くのご助言をいただいた。今後とも産業界と連携しながら頑張りたい。
- ・平成26年度から5年間、とやまナノテククラスター事業として、文科省の地域イノベーション戦略支援を受けてきた。これまで蓄積してきたノウハウをアルミコンソーシアムの中で発揮してまいりたい。
- ・両コンソーシアムとも責任を持ってKPIを達成できるよう努力したい。
- ・本県は医薬品産業だけではなく総合的な化学工業のベースがあって発展してきた部分もあり、生物工学科の受験生にも響いてほしい。